

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室



生徒: 芝生管理に堆肥で土作りは無理があるようですが、実際問題、いい事は何も無いのでしょうか？

先生: そうね、つまりは『有機』が何なのかを理解しないといけないけど、有機物はたくさん種類があるし、原料が天然物である以上、工場で作った肥料のようにすべての袋の中身が同じではないので、正確に効果を推測するのが大変難しいわ・・・

生徒: 私の性格ではそんな効果も中身もあやふやなものはあまり使いたくないですね・・・

先生: では、そんな中でもどんなことが起こるか検討してみましょう・・・まず第一に堆肥を含む有機肥料は、「肥料」としての性格と、「土壌改良剤」としての性格があるといっていわね・・・まず肥料として考えたときに起こることを考えてみましょう・・・肥料として考えるときは、その物質の中にどれだけ肥料成分・・・つまり窒素 (N)、りん (P)、加里 (K)・・・などの植物が必要とする元素が入っているかがポイント・・・

生徒: なるほど・・・と言うことは、元の有機物の原料によるところが多いでしょうね・・・

先生: そのとおりね・・・植物由来、動物由来、その他あるけど、植物由来であればその主な原料である植物の種類がわかればわかりやすいわね・・・

生徒: なるほど！・・・例えばベントグリーンの刈り粕を集めて作った堆肥ならベントの葉身分析で出る結果の比率でN, P, Kなどの元素が入っているということですね！

先生: その通り！・・・同じ植物由来の堆肥は含まれている肥料元素も同じだから、微量要素まで含めて理想的な配合になるということなのよ・・・

生徒: じゃあフェアウェーの芝刈りを集草バケツトなしで刈り込むということはそのまま施肥にもなるということですね・・・

先生: そういうことになるわね・・・稲の刈り取った後の稲わらを田んぼにすき混んで肥料とするのは理にかなっているわ・・・でも問題なのはちゃんと「堆肥化」していないと問題が起きるのよ・・・

生徒: あっ、C/N比 (第44回)の所で習いました・・・完熟させて炭素 (C) を分解させないと土壌微生物が過剰に繁殖して窒素 (N) 成分を使ってしまつて植物

が肥料成分を吸収できなくなるんですね・・・

先生: よく覚えていたわね・・・問題は完熟させるのにとっても時間と手間がかかるから実際の製品がどのくらい完熟しているかどうか一目ではわかりにくいわ・・・それに完熟しても有機肥料の中のN, P, Kなどの肥料成分は数年から数十年かからないと溶出ししないとされているわ・・・

生徒: ん～はつきりしませんね・・・

先生: 動物性の原料なら鶏糞や牛糞など、それらの家畜の餌が持っている元素に由来することになると思うわ・・・食品工場からの産業廃棄物ならその元の原料の有機物しだいね・・・

生徒: となると、なかなか想像つきにくいですね・・・牛が牧草だけ食べていれば牧草の持つ元素・・・下水処理場の汚泥だったら・・・まったくわかりませんね・・・

先生: そういうものだから仕方ないわね・・・土壌改良剤として考えたときは、畑の土が粘土質だったりして固く締まっているときなどに堆肥をすき込むことによって土壌に空気の間隙を作ることもできるからいいわね・・・また有機物は高分子構造なので基本的に保水能力があるので適度に水を保持することも期待できるし、火山灰土でpHの低い酸性土壌であれば、水と同じように水素イオンを抱きかかえていわゆる「緩衝能」があるので土壌の安定性が期待できるわ・・・

生徒: なるほど、耕耘してすき込めるなら良い働きが期待できるんですね・・・

先生: そうね・・・ただ芝生の上から撒いても有機物は軽いから雨で流れて低いところや集水マス周りに集まってそこだけぐちゃぐちゃになってしまうわ・・・これらの説明は一般的な説明で、有機物の原料によってはその通りにならない可能性もあるわ・・・堆肥を使うならまず原料の確認は必須ね・・・あと有機物はミミズや虫、微生物の餌になるのでその点も注意ね・・・基本的には畑地でも土壌中の有機物量は5%ぐらいが適度な量なので、芝地だったら3%もあれば十分ね・・・それ以上あるようだったら有機物を使う必要は全くないわ・・・サンドグリーンだったら1%もあれば十分・・・物価も高騰、しかも異常気象時代に『安物買いの銭失い』にならないように良く考えて管理しないとね・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》